羽矢辰夫教授のご退職に際して

菅　野　博　史

二〇一六年四月より創価大学大学院文学研究科に着任され、「仏教研究法」、「インド仏教思想特論」、「パーリ語仏教特論」などを担当され、また学部においても「サンスクリット語」、「東洋思想史」を担当されてきた羽矢辰夫先生が本年三月ご退職を迎えられます。

一九八八年に創価大学文学部に人文学科が創設されたときには、一九九一年開講予定の三年次配当科目としてサンスクリット語がありました。ご担当予定の岩本裕先生（一九一〇～一九八八）がご担当前にお亡くなりになったため、私は東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程において同級生であった羽矢辰夫先生にお願いして、非常勤講師としてサンスクリット語を担当していただきました。その後一九九三年に、羽矢先生は青森公立大学に赴任されましたので、このサンスクリット語のご担当は二年間で終わりました。その後二〇一七年に創価大学大学院文学研究科の人文学専攻のなかに「仏教学専修」を開設することになり、その準備のために、前年の二〇一六年に創価大学にお招き致しました。仏教学専修は小さな世帯ですが、少なくともインド仏教、中国仏教、日本仏教の教員をそろえなければならず、私としては同級生で気心の知れた羽矢先生にインド仏教のご担当をお願いした次第です。羽矢先生は青森公立大学を定年退職する一年前でしたが、私の申し出をご快諾くださり、本学に着任されました。

仏教学専修の開設時の困難な時期をともに過ごしていただき、研究、教育の面で多大なご貢献をいただきました。この間、仏教思想学会、日本印度学

仏教学会（オンライン開催）の開催校としての責任を果たせたのも羽矢先生のご協力の賜物でした。

ここで、羽矢先生の研究者としてのご経歴を簡潔にご紹介させていただきます。羽矢先生は、一九七五年に東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程を卒業、一九八三年に東京大学大学院人文科学研究科博士課程（印度哲学専門課程）を単位取得満期退学されました。一九八三年四月から日本学術振興会奨励研究員（一九八四年三月まで）を務められ、一九八八年四月から財団法人東方研究会（文部省試験研究所）専任研究員に就任され、一九九三年四月から青森公立大学経営経済学部助教授に就任され、二〇〇〇年一〇月から同教授に就任されました。その後二〇一六年三月に同大学を退職され、二〇一六年四月から創価大学大学院文学研究科教授に就任されました。この間、千葉県立衛生短期大学、武蔵野女子大学、専修大学、創価大学などで非常勤講師として教育に当たられました。

羽矢先生は、東京大学の学生時代から一貫して、主にインドの原始仏教の研究をされ、仏教の開祖のゴータマ・ブッダの思想の解明に努力してこられました。著作も、『ゴータマ・ブッダ』、『ゴータマ・ブッダの仏教』、『スッタニパータ――さわやかに生きる、死ぬ』、『ゴータマ・ブッダのメッセージ――「スッタニパータ」私抄』を刊行され、昨年八月には『ゴータマ・ブッダ その先へ――思想の全容解明』というご自身の研究の集大成を刊行されました。羽矢先生は、ご著作のなかで、「自他分離的自己」から「自己融合的自己」への転換を目指す「ボサツ的人間のあり方」を「新しい人間のモデル」として提示されています。ご定年の年、古稀を迎える年に著作を刊行するということは誰にでもできることではなく、羽矢先生の真摯な研究意欲を感じます。私たち後進の見習うべき点であると思います。その他、パーリ語原始仏典の翻訳も多数出版しておられ、多数のご専門の論文も発表しておられます。日本におけるパーリ仏教研究の分野において著名な研究者として活躍され、二〇〇七年からパーリ学仏教文化学会の理事も務めておられます。

羽矢先生は本学へ着任されて以来、その飄々とした人格によって、大学院

生、学部生の教育にも多大な貢献をなさいました。本学での在任期間は短いものでしたが、羽矢先生の学術研究上ならびに教育上の功績はとくに顕著であり、本学名誉教授の称号の授与も決定しています。

幸い、羽矢先生はご建康に恵まれて古稀を迎え、ご退職されます。今後は教育の義務、校務から解放されて、ご自分の好きな仏教研究に自由に取り組むことができると思います。今後とも、仏教学界、後進の私たちを導いてくださるようにお願い申し上げます。これまで、本当にありがとうございました。